

中学生海外派遣事業 帰町報告会

新富町中学生海外派遣事業で、町内の中学2年生19名が、7月26日から30日までの4泊5日、台湾で研修を行いました。この事業は、中学生が他国の文化や歴史などに理解を深めるとともに、3校の生徒の交流の場ともなります。ここでは、先日開催された報告会の内容をご紹介します。

台湾は、水道水がそのまま飲めない！

ジュースも色んな種類がありました。



一班班長
中村駿哉くん

一班のテーマは、「台湾の食文化」です。日本と台湾の「食」の違いを調べました。

中でも、台湾の飲み物がとても印象に残りました。まず面白いと思っただのが、お茶の種類が多かったことです。地方によっては、茶葉を完全に乾燥できず、黄色っぽくなった

り、お茶に微生物がついて発酵したりして、自然発生的にお茶の種類が増えていったそうです。そして驚いたのが、水道水が煮沸しないと飲めないことです。日本では、学校の水道から水を飲むことができませんが、台湾ではそれができないので、大変だと思っていました。



二班は、「台湾の暮らし」について調べました。台湾は、車が右側通行で歩行者より車優先だったり、トイレットペーパーを流さなかったり、日本とは違う常識がたくさんありました。でも、一番驚いたのは、台湾の中学生の語学力です。



今回の派遣で、三和国民中学の生徒と交流しました。

使った言葉は英語でしたが、とてもすらすら

今でもメール等で交流しています。

踊りやスポーツで、台湾中学生と交流！



二班班長 有馬愛華さん

と話していて、すごいなと感じました。また、交流会ではソーラン節などを披露しました。そのお返しに、バドミントンの名門校である三和国民中学の生徒から、バドミントンを教えてもらうことができました。



実際に異国へ行き、実感したことや発見したこと。

言葉や習慣が違ってても心が通じ合えること。

生徒達は、とても貴重な体験ができたようです。



三班は、「台湾の観光地」をテーマに、歴史や技術について学びました。

九份の夜の景色も見てみたいです。



三班班長 山脇花織さん

『忠烈祠(ちゆうりつじ)』は、一時間ごとに行われる衛兵の交代式が有名ですが、元々は、日本の植民地時代の護国神社を、第二次世界大戦後に改めたものだそうです。

『台北101』は、地上101階立ての台北のランドマークです。世界有数の高層ビルには、日本の大企業のエレベーターが使われていました。『九份(きゅうぶん)』は、昔の姿がそのまま残っており、レトロな雰囲気

このように、台湾と日本には、様々な形のつながりがあることを知ることができました。

気を醸し出す街として有名です。スタジオジブリ作品のモデルになった場所です。



レトロな街並みはとてもステキ！